

## <<プログラム>>

# ～日本笑い学会・関東支部 20周年記念研究会～

日 時：2014年12月20日（土） 12：30開場（3階）  
研究会：13：00～17：00 記念パーティ：17：30～19：30

場 所：明治大学・リバティタワー（お茶の水）第1031大教室（3階）/サロン（23階）

12：30～ 受付開始 リバティタワー3階・1031教室

13：00～13：30 20周年記念式典

主催者挨拶：斎藤 精一（関東支部・支部長）

来賓祝辞：昇 幹夫氏（日本笑い学会・副会長）

来賓祝辞：淵田 科氏（日本笑い学会・三重支部長）

活動報告：松田 和枝（関東支部・副支部長）

13：30～14：30 記念講演「笑いとコミュニケーション」

講師：金原亭世之介（きんげんていよのすけ）氏  
（落語家・大正大学客員教授）

14：30～14：40 休 け い

14：40～16：50 シンポジウム 「笑いとコミュニケーション」

講師：井上 宏 氏（関西大学・名誉教授）

三宅 聖子 氏（障害者福祉センターはあとびあ原宿・副所長）

大島 希巳江 氏（神奈川大学・教授）

中井 宏次 氏（NPO 法人健康笑い塾・主宰）

座長：高杉 和徳 氏（日本笑い学会・理事）

16：50～17：00 主催者挨拶

17：00～17：30 移動（1031教室 → サロン）

17：30～19：30 記念パーティ（23階・サロン）

主催 日本笑い学会・関東支部

関東支部連絡先： E-mail：[un\\_ei-01@warai-kanto-0808.org](mailto:un_ei-01@warai-kanto-0808.org)

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティアセンター メールボックスNO. 54

ホームページ：<http://www.warai-kanto-0808.org>

# 13:30～14:30 記念講演「笑いとコミュニケーション」

講師：金原亭世之介（きんげんていよのすけ）氏

（落語家・大正大学客員教授）

## 講演概要：

まず「楽しい」「面白い」とは何なのか？そして何故、人は「笑い」を欲するのか？今回はこの二点から笑いとコミュニケーションについてアプローチして行きたいと思っています。

普段使用している何気ない言葉や挨拶が実はその基本であり、その行為が仕事の効率向上や運動能力、思考能力の向上に繋がっている事を、僕の研究のひとつである「アプライトキネシコロジー」の要素を使ってお話したいと考えて居ます。

今回は目の前でその体験をしていただき、笑いと言葉のパワーと相反する負のパワーの使用技術を伝授します。講演にお越しいただいた方々は太古からある「言霊（ことだま）」と言う言葉を実感して帰ることとなると思います。

すでに欧米ではこの学問は各大学などでの研究テーマになり、世界中に広まっていますので何処かでお聞きになったことのある方もいることでしょう。

笑いが各病気の治療に効果があるというのもこの分野からの枝分かれなのです。落語家と言う立場からの入り口で研究を始めて学問として認めて頂き、毎回このテーマで講演を行うたび、人間の持っている底知れない言葉と笑いの力に皆様から喝采を戴いています。

たぶん、初めてこの講演をお聞きいただく方は、狐に摘まれたような不思議な気分を味わうことでしょう。

## プロフィール：

落語家生活 30 年の（社）落語協会真打ち。

うなぎのファストフードショップを考案。会社を設立し、社長として成功させた経歴を持つ。

特技は、作詞、作曲、イラスト、俳句、マジック。日本舞踊「浅茅流」名取り。本当のマルチタレントである。本業の古典落語は、人情話と女の演出は他の噺家の群を抜いている。

落語と江戸文化研究、コミュニケーションでの講演多数。大正大学客員教授として教鞭をとる。

## レジュメ：

「笑いとコミュニケーション」 笑いとは何か なぜ 笑いを求めるのか

### 笑いの効果と実験

I 物理心理学（フィジカルサイコロジー）

II 応用運動機能学（アプライトキネシコロジー）

### 脳の活性（ホルモン）

セレトニン、ドーパミン、ルドアドレナリン等

（神経）脳、骨髄 → 刺激（インパルス） → ホルモン指令 → 力

（刺激）思考は言葉 → 脳の行動予測

### 0リング実験 大村博士の臨床実験

1 言語によるインパルス刺激 言語誘導 （自己誘導）（外部誘導）

2 視神経によるインパルス刺激 視覚誘導 （自己誘導）（外部誘導）

3 行動によるインパルス刺激 動態誘導 （自己誘導）（外部誘導）

# 14:40～16:50 シンポジウム 「笑いコミュニケーション」

講師：井上 宏 氏（関西大学・名誉教授）  
三宅 聖子 氏（障害者福祉センターはあとぴあ原宿・副所長）  
大島 希巳江 氏（神奈川大学・教授）  
中井 宏次 氏（NPO 法人健康笑い塾・主宰）  
座長：高杉 和徳 氏（日本笑い学会・理事）

1. 本シンポジウムの意図（座長 / 5分）
2. 各講師からの問題提起（各講師 / 10分）

## 井上講師：「情報科学とコミュニケーション」

私たちの「コミュニケーション状況」は、情報技術の急速な発展・普及で、複雑化し、それに合わせて人間関係の有り様も一層複雑化してきている。便利さと効率性が増す一方で、孤独化や摩擦・誤解も増大し、人間関係をめぐる緊張・トラブルは増える一方である。そうした緊張・トラブルを一時的にしる永続的にしる緩和・解消していく方策を考えることが重要である。最も有効な策が、「ユーモアコミュニケーション」で、「ユーモア」が秘める可能性について言及したい。

## 三宅講師：「笑いコミュニケーション ～障害者と笑い～」

「ユーモアコミュニケーション」は、ひととの関係作りの潤滑剤とされています。常日頃「ユーモア」を理解し創造するためには、少なからず言葉に関する教養が必要とされていると感じています。そんな中、言葉の理解が難しい重度の知的障害者や、言語を発することに困難が生じる脳血管障害や交通事故後遺症などによる失語症患者の皆様と共に臨床の場で過ごし、ユーモアコミュニケーションのために必要な「共感し合い、対等な立場」のセンスについて考察したいと思います。

## 大島講師：「国際コミュニケーション・異文化交流」

世界に共通するユーモアのテーマ：死、愚かさ、貧困、男女関係

「世界が限りなく平和であったら、ジョークは存在しない」と言われる。人が笑いを求める理由は数多くあるが、普遍的なユーモアの機能の一つとして、不運や不幸に対する不安を笑い飛ばし、衝突を緩和する、というものがある。文化の違いにおける笑いの違いを追求する中で、異文化に関わらず共通する死・愚かさ・貧困・男女関係・権力への抵抗、などの普遍的なユーモアのテーマを見出し、解析したい。

## 中井講師：「笑いコミュニケーション・企業研修」

本来のコミュニケーション能力とは、単なる人間関係を良くするための能力だけではなく、コミュニケーションによって、新しい可能性が生まれ、組織が変わり、組織全体が革新することができる能力なのである。一人ひとりの秘められた潜在能力を如何に組織の方向性を考慮しながら活かしていくのか、それこそコミュニケーションが成せる業なのである。今まで、コミュニケーションと言えば、他人との対話の仕方としての研修が多く行われてきたが、なかなか成果が上がらないのが現状である。それは、己との会話ができずして、他人との対話が出来ない事を忘れているからである。今回は、先ず、己と対話するにはどの様にすればいいのかを実践を通じて、ご指南をさせていただきます。是非ご笑味ください。

3. 討 論（講師間 フロア / 70分）
4. まとめ（座長 / 15分）